

開成南小学校 学校だより

みなみの風



2019
令和
元年
5月



日光で 日本や世界の大きさを 感じました！



5月11日(土)
～12日(日)

おそらく二度とはないであろう10連休が明け、学校生活のリズムが完全には戻らないまま、新時代最初の6年生日光修学旅行が実施されました。

国内でも自然と歴史が共存する日光エリアは、ここ数年、着実にインバウンドの外国人観光客が増えているとのこと。今年度は土日の旅行となりましたが、予想通り、国内外を問わず多くの人々で賑わっていました。

日本語のみならず、数か国言語での表示や受け入れ体制を目の当たりにして、いわゆる“観光産業”や“サービス”、“お・も・て・な・し”についての工夫や試行、日本の持つ自然や歴史の素晴らしさなど、いろいろ感じることができました。

「自分たちが育ち学んでいる開成町周辺は、まだまだ小さなエリアなんだなあ……。」と、しみじみ感じ、世界へと視野を広げる必要性、将来の進路や期待・希望へ向け、新たに考えを巡らせる機会となった児童もいたようです。

修学旅行は、見聞を広め知見を得る絶好の機会となりました。

6年生のこれからの小学校生活や人生のステップとして、大きくかつ望ましく反映されることを期待します。

素敵な光景、楽しい思い出をみんなで味わってきました！

しばらくは、余韻のみで学校生活を乗り切っていかれそうです。



5～6月は、校外学習のシーズンです



5月16日(木)～
6月21日(金)



5/11,12の6年生修学旅行を皮切りに、開成南小の校外学習シーズンが始まりました。

去年は6/6が関東地方の梅雨入りでしたが、年々梅雨入りは早まる傾向があるそうです。逆に梅雨明けは遅くなる傾向で、関東地方での梅雨明けは7/10頃ではないかとの予想もあります。

この時期、天気予報や空にとらめっこをしながら、校外学習の計画実践や打合せをしています。稲作農家の方々の田植えと同様なのかもしれません。

校外学習は、見学や体験することによって理解が深まり関心が高まることが期待されています。事前の学習で準備を整え、本番である当日に臨みますが、本当に大切なのは「実際に行ってみて、どう感じた or 考え方が深化したのか」という事後なのかもしれません。

“楽しかった”だけでは物足りません！



2019年度の

校外学習予定

(町外分)

- 1学年 5/17 諏訪の原公園
- 2学年 5/16 わんぱくらんど
- 3学年 5/21 新江の島水族館
- 4学年 6/21 神奈川県警 他
- 5学年 5/23～24 林間学校
(足柄ふれあいの村)
秋頃 自動車工場 他
- 6学年 5/11～12 日光方面
冬頃 国会議事堂 他

※予定については、気象等の都合により変更等もあります。

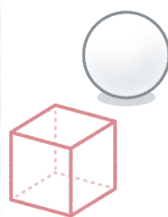
※梅雨時は、傘を差しての歩行による視野確保の困難等、特に安全が懸念されるシーズンでもあります。開成南小学校の登校時の正門の開門時刻は、7:45です。安全な登校や歩道通行の妨げの恐れ等も鑑み、7:50～8:10の間に正門の通過ができるような自宅出発時刻調整等の配慮をお願いします。

誰もが個性と能力を発揮し、生き生きと暮らしていけるように！ 5月20日(月)

この日の朝会は、みなみ学級担当の鍵和田教諭、筒井教諭、呉地教諭による絵本「かっくん～どうしてボクだけしかくいのか?～」(クリスチャン＝メルベユ 著)の読み聞かせを中心に展開されました。「友達との接し方」「友達のよさ」等を伝えたいねらいで、児童たちに終始優しい雰囲気の下で、語られ進められていきました。

御存知のとおり、神奈川県教育委員会では、すべての子どもができるだけ同じ場で共に学び共に育つ、インクルーシブ教育の推進に取り組んでいます。本校の児童や教職員たちにも、お互いを認めあい集団として共に育つ考え方がより醸成されていくとよいと考えています。

司会役の第1学年主任・浦中総括教諭からは、「一人ひとり違うことによって、そこからたくさんのが学べます。そこから素敵なことも始まります。みんなに素敵になってほしいです。」という言葉に続いて、「2～6年生の皆さん、1年生の手本・見本として“時間を守る”態度がしっかりうかがえる先輩の後ろ姿を見せてください。」というお願いが付け加えられました。“約束”同様、「時間」を守ることは社会人としての基本ですが、破ったり守らなかったりすると「相手」に迷惑がかかってしまったり信頼も薄らいだりしてしまいます。自分の都合ばかりでなく、常に相手や周囲を



認め、意識し思いやれる心について、児童たちには強く響いてほしいです。

社会でも様々な職場やチーム等で朝会が行われていますが、以後の爽やかな生活につながる素敵な時間になっていくとよいですね。

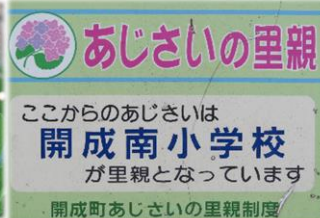


今年度も“あじさい”に関わります



5月27日(月)、6月1日(土)
～6月9日(日)ほか

昨冬に、かなり思い切り剪定していただいた学校内のアジサイも、薄緑の蕾(?)が見られます。開成南小学校が里親となっているアジサイの見頃はまだまだもう少し時間がかかりそうですが、園芸委員会の活動の一環としての里親アジサイの整備作業や、3学年の総合的な学習の時間での「あじさいまつりに参加しよう！」等で、開成町の花・アジサイと広く関わっていきます。



季節のたより

「紫陽花」「安治佐為」「味狭藍」「集真藍」「阿豆佐為」。すべて開成町ではおなじみの花、「あじさい」と読みます。今年の「あじさいまつり」〔6/1(土)～6/9(日)〕を伝えるポスターが、校内に貼り出されています。

昔から伊豆半島、伊豆七島、神奈川県、房総半島などの海岸に近い山地に自生している「ガクアジサイ」と、ヨーロッパで品種改良され再び日本に入り好まれている「セイヨウアジサイ」の二種が有名なようです。

近隣の箱根をはじめ、日本は火山の影響や雨が多い国であり基本的な土壌は「酸性」なのだそう、露地植えて紫陽花を植えた場合、基本的には「青系」の紫陽花が咲きます。御存知のとおり、土壌の「pH」によって花の色が大きく変わってくるので、例えば青い花を赤くするためには、石灰等を人工的に撒くとその効果により赤い花が咲くそうです。今では「赤い紫陽花専用」や「青い紫陽花専用」など、咲かせたい花色にpHを合わせた土まで売っているので、花の色を気軽にかつ簡単に調整して楽しむことができる時代になりました。

アジサイは別名「七変化」とも呼ばれ、古来の日本の武士の間では「寝返る」「信用ならない」という理由をこじつけられて嫌われ、また自分がころころ変わると思われたくない意識から自宅での栽培を禁じる武家の主人もいたとの話もあります。花言葉が「移り気」なのも、その影響かもしれません。アジサイはとても不思議で妖しい花に思われていたのでしょうか。

アジサイが最も映えるのは”雨上がりの青空”であると、以前から感じています。もうすぐ訪れる”夏”を、視覚として実感する瞬間でもあります。(担当)

